

第8回日展

第5科（書） 審査所感

審査主任 高木 聖 雨

昨年度より続くコロナ禍は社会情勢と我々の生活を一変させ、芸術界も様々な困難に見舞われました。その大変な状況の中で、本年度も無事に日展が開催できることを心より嬉しく思います。

今回展の応募点数は8,518点、昨年度よりも87点増加しました。これは偏に作家の皆様の手を愛する心と制作意欲の高さ、そしてコロナ禍に負けるものかという強い意志によるものだと考えております。敬服の外ありません。入選率は約13%と厳しいものでしたが、審査にあたり、絶え間ない鍛錬による線の充実した力強い作品、流麗な連綿と余白の輝く作品、古人の考えや技を咀嚼、アレンジし現代感覚に溢れた作品、古法に忠実な安定感の感じられる作品、澁漑とした若手の作品など、多くの作品から例年以上の熱い思いとエネルギーを感じることができました。公正公平をむねに、審査員一同、真剣に審査に臨みましたが、水準の高い作品群から入落を選定せねばならないことにはやはり苦心いたしました。特選の選考は特に苦慮しましたが、選ばれた作品はどれも技法と感性、表現法の粋ともいふべき珠玉の作と言えます。

コロナ禍で、書とはどのような芸術か、社会における書の存在意義は何か、各作家がそのようなことを考えることも多かったのではないのでしょうか。新しいことに挑戦する作家、原点回帰をはかる作家、現状の仕事をより深化させようとする作家、色々な姿があったかと思います。今回の作品は、皆さんがコロナ禍をどのように過ごしたか、如何に書に向き合ったかの結果となっていることでしょう。先行きの見えない状況ではありますが、前を向いて「日展の書」をともに盛り上げていきましょう。

搬入数	8,518点
入選数	1,083点
(内新入選)	209点